

福岡市におけるインフルエンザ疾患の流行状況について(2002年度)

微生物部門 ウィルス担当

今シーズンのインフルエンザ集団発生は表1に示すように計31施設で発生し、延べ患者は813人であり、昨シーズンとほぼ同数であった(表2)。

集団発生は2002年12月17日と、過去5シーズンでは最も早いスタートをきり、2002年第51週、2003年第4週、第9週をピークとする3峰性の流行曲線を示した(図1)。

感染症発生動向調査においても、昨シーズンより早い

2002年第49週から患者数が増加し始めた。第52週、年が明けて第2週に明確なピーク、第9~11週にゆるやかなピークがあった後、終息に向かった。なお、今シーズンの終息は第17週であった(図2)。

全国と比較すると、若干早めの流行であり、集団発生と感染症発生動向調査の患者報告数の推移はほぼ同じパターンであった。

表1 集団発生事例における施設別発生状況

施設	発生施設数	在籍者数	患者数	休校数	学年閉鎖	学級閉鎖
幼稚園	4	151	66	3	1	
小学校	21	1240	583	2	1	18
中学校	4	169	96			4
その他	2	123	68			2
計	31	1683	813	2	4	25

表2 過去5シーズンの集団発生患者数

98/99	99/00	00/01	01/02	02/03
4,147	2,386	34	806	813

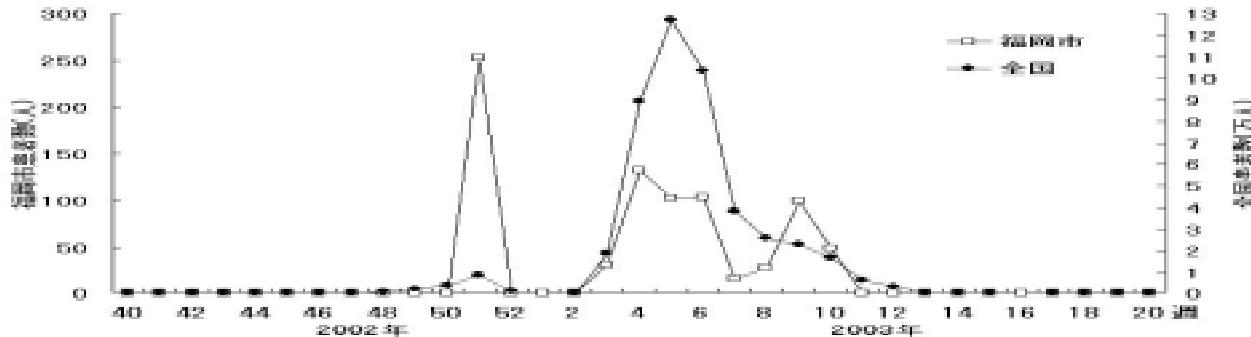


図1 インフルエンザ様疾患集団発生患者数

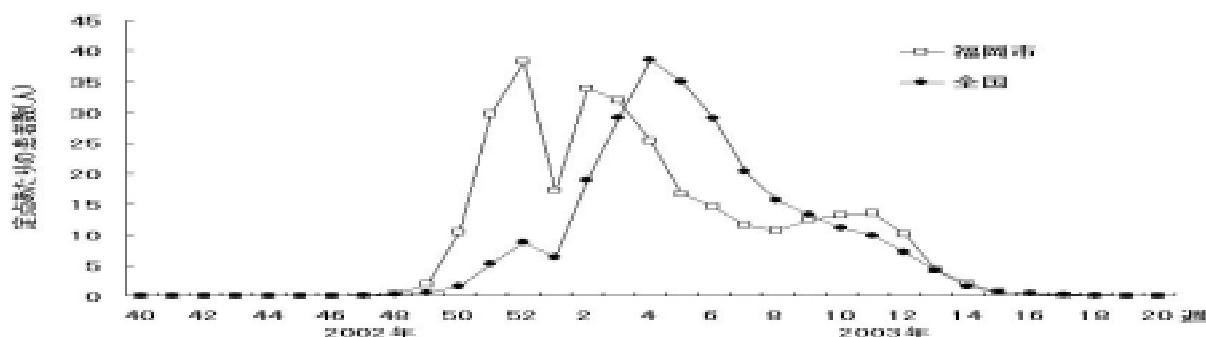


図2 定点あたりのインフルエンザ疾患患者報告数

集団発生検体からは 17 検体中 8 検体から A・H3 型が分離された。また、血清学的検査により 10 検体から A・H3 型に対する抗体価の有意な上昇が確認された(表 3)。残りの 7 検体はペア血清が得られず、判定は不能であった。

感染症発生動向調査からのウイルス分離は A・H3 型が 60 株、B 型が 34 株であった。図 3 に示すように流行初期に A・H3 型が後期に B 型が分離され、中期は両方が

混在していた。

また B 型は同定試験の結果、34 株中 31 株が B/山東/07/97 に、3 株が B/広島/23/2001 に近いタイプであった。なお、分離株の同定に際しては感染症研究所配布のフェレット感染抗血清を用い、B/山東/07/97 と B/広島/23/2001 の鑑別が困難な場合は、MDCK 分離 Victoria 系統株である B/鹿児島/11/2002 を用いた。

表3 集団発生事例におけるインフルエンザ検査結果(ウイルス分離・同定とペア血清の HI 抗体価)

年齢	性別	ウイルス分離	血中 HI 抗体価						判 定
			A/モスクワ/13/98(H1N1)	A/ニューカレドニア/20/99(H1N1)	A/パリ/2007/99(H3N2)	A/福岡市/114/2002(H3)	B/山東/07/97	B/広島/23/2001	
1 13	男	-	40 40	<10 <10	<10 40	<10 160	<10 <10	<10 <10	A・H3型感染
2 13	男	A・H3	160 160	40 40	<10 40	<10 160	<10 <10	20 20	A・H3型感染
3 13	男	-	20	<10	<10	10	<10	10	判 定 不 能
4 12	男	A・H3	40 40	<10 <10	<10 160	<10 320	<10 <10	<10 <10	A・H3型感染
5 14	男	A・H3			回復期	血清	なし		A・H3型感染
6 13	男	A・H3	160 160	40 40	<10 80	<10 160	<10 <10	10 10	A・H3型感染
7 12	男	A・H3	40 40	<10 <10	<10 320	<10 320	<10 <10	<10 <10	A・H3型感染
8 11	男	-			急性期	血清	なし		判 定 不 能
9 13	女	A・H3	80 80	40 40	<10 80	<10 160	<10 <10	40 40	A・H3型感染
10 11	女	-	10 10	10 10	<10 40	<10 160	<10 <10	<10 <10	A・H3型感染
11 11	女	-	80 80	40 40	<10 160	<10 320	<10 <10	20 20	A・H3型感染
12 11	男	-	<10	20	40	160	<10	<10	判 定 不 能
13 8	男	-	40	<10	<10	10	<10	<10	判 定 不 能
14 9	女	A・H3	20 80	<10 <10	<10 640	<10 1280	<10 <10	40 40	A・H3型感染
15 7	女	-			回復期	血清	なし		判 定 不 能
16 9	男	-			急性期	血清	なし		判 定 不 能
17 11	男	A・H3	160 160	40 40	<10 160	<10 160	<10 <10	<10 <10	A・H3型感染

(注)上段は急性期 HI 抗体価 下段は回復期 HI 抗体価 急性期と回復期で 4 倍以上の抗体上昇を有意上昇とした 使用抗原 A/福岡市/114/2002 は 6 からの分離株 他の使用抗原 5 株は感染研分与診断用抗原

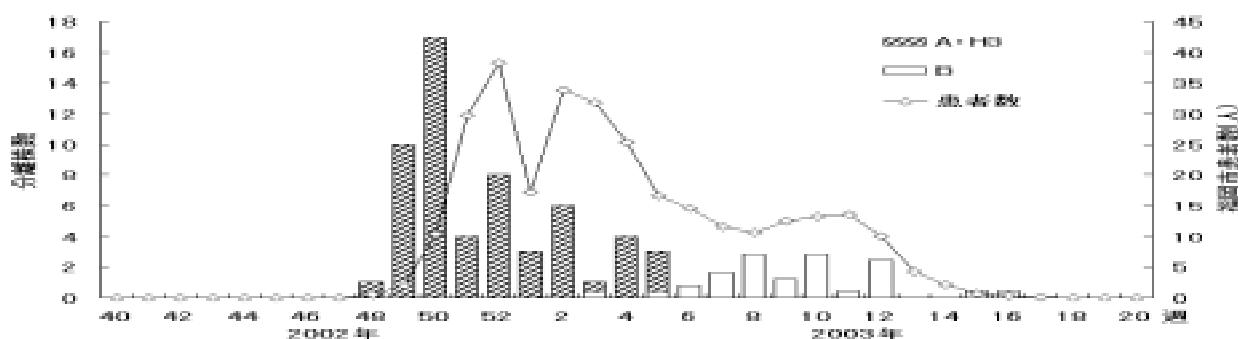


図 3 福岡市の定点あたり患者報告数と分離株数